

大豆栽培管理情報（畦間かん水・防除号）

令和8年 7月24日
アルプス農協管内農業技術者協議会
大豆マニュアルp9～10参照

莢先熟（青立ち）の防止と収量安定のため、**莢数と稔実子実重を確保**することが重要となります。
今後は、「**開花期～9月上旬までの畦間かん水**」を実施し、「**病害虫防除**」を適期に行いましょう。

1. 畦間かん水 ～開花期以降の干ばつを防止しましょう～

- ・ **3日間以上晴天が続く場合は、土壌が乾きすぎる前に、畦間かん水を行いましょう。**
- ・ **かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水しましょう。**
- ・ かん水は**朝夕の涼しい時間帯**に行いましょう。
- ・ 地域での計画的な用水の利用を行いましょう。



土壌が乾燥しすぎると圃場全体に水が行き渡りにくくなります

葉が立ち、裏側が見えてくる前に、畦間かん水を実施しましょう

2. 病害虫防除 ～虫害による莢数の減少・子実肥大停止を防ぐために防除を徹底～

- ・ 紫斑病、カメムシ類等の病害虫を対象とした**2回の基本防除を徹底**しましょう。
- ・ 農薬の使用基準を守り、周辺への飛散防止に努めましょう。

<病害虫防除の目安>

	基本防除		随時防除	
散布時期	8月2～3半旬 【大豆の莢が伸びきった頃】	8月4～5半旬 【大豆の子実が枝豆程度の頃】	8月下旬～9月中旬 【白変葉発見時】	9月上～中旬 【カメムシ発見時】
対象病害虫	紫斑病 カメムシ類	紫斑病 カメムシ類 〔ハスモンヨトウ マメシンクイガ〕	ハスモンヨトウ マメシンクイガ カメムシ類 アブラムシ類	カメムシ類 マメシンクイガ アブラムシ類 フタスジヒメハムシ
粉剤体系	Zボルドー粉剤 DL 3 kg/10a ＋ スミチオン粉剤 3DL 4 kg/10a	トライトレボン粉剤 DL 3～4 kg/10a	トレボン粉剤 DL 4 kg/10a	ダントツH粉剤 DL 4 kg/10a
液剤体系 《通常散布》	トライフロアブル 150mL ＋ ダントツフロアブル 60mL (水 150L で希釈)	アミスタートレボン SE 150mL (水 150L で希釈)	トレボン乳剤 150mL (水 150L で希釈)	ダントツフロアブル 60mL (水 150L で希釈)
液剤体系 《空中散布》	トライフロアブル 8 倍 ＋ ダントツフロアブル 24 倍 0.8L/10a	アミスタートレボン SE 8 倍 0.8L/10a	トレボンエアー 8 倍 0.8L/10a (※アブラムシ類は除く)	ダントツフロアブル 24 倍 0.8L/10a (※マメシンクイガ、 フタスジヒメハムシ、は除く)



※基本防除後もカメムシ類を発見したら、随時防除をしましょう。

※幼虫が大きくなると、防除効果が十分得られないため、白いレース状の葉の食害や幼虫を見かけたら、早急に防除しましょう。

3. 雑草防除 ～早めの雑草抜き取り～

- ・ 雑草は**結実する前に抜き取り**ましょう。
- ・ 特に、**株間に残った大型雑草や帰化アサガオ類、イヌホオズキ類等の難防除雑草**は、除草剤散布後でも再発生することがあるので、圃場周辺も含め**継続的に抜き取りを徹底**しましょう。

農作業中の熱中症・事故に注意！ 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を！